



## 関東大震災からまもなく100年～語り継ぐことの大切さ～

大正12(1923)年9月1日、突然襲った関東大震災。37年後に9月1日は「防災の日」と制定され、今年は大震災からちょうど100年になります。この機会に、関東大震災と阪神・淡路大震災の概要と、東日本大震災は麻布消防署消防士3名の経験談もまじえてご紹介します。

### 関東大震災 「大正関東地震」 大正12(1923)年9月1日(土)午前11時58分

相模湾が震源のM7.9、最大震度6(当時。被害程度は現在の震度7相当)。中央気象台観測室と東京帝国大学地震学教室の地震計の針は振り切れ、まるで暴風雨に襲われた小舟にいたようだったそうです。

東京、神奈川、千葉、埼玉、静岡、山梨、茨城で、全半壊した家屋は約160,300戸。官公庁や有名な建物も全半壊・焼失。工場、研究所、薬局等でこぼれた薬品類が発火し、下町で85～100%焼失したエリアも。犠牲者約104,600人の95%が3日間の大火災による焼死のため「大正関東大震災」とも呼ばれました。

本所区横網町(現、墨田区)の被服廠跡20,430坪の広場では、避難者約4万人の家財に飛び火して燃え広がり、約38,000人も犠牲に。麻布区は火災がほとんどなく

185人、赤坂区は6.5%焼失し142人、芝区は25.7%焼失し494人亡くなりました。

熱海や伊東は津波と山津波の被害も甚大で、大洞山崩壊で国鉄熱海線(現、JR東海道線)根府川駅舎と列車と白糸川鉄橋と村落が約100m下の海中に没するなど、多数の犠牲者が出ました。

政府は当日のうちに「震災内閣」を組織し、翌日「臨時震災救援事務局」も設置。救援拠点の芝公園には共同バラック(仮設住宅)が建ち、芝浦埋立地は救援物資の一大集積場に。

国は「帝都復興事業」を掲げ、7年後には「新しい東京」に。近代的な「同潤会アパート」が建つきっかけになりました。

72年

88年

### 阪神・淡路大震災 「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」 平成7(1995)年1月17日(火)午前5時46分

28年前、淡路島北部の野島断層が震源のM7.3、震度7の激震。建物類約333,400か所全半壊し、火災も多数発生。犠牲者・負傷者あわせて約50,200人のほとんどが家屋や家具の倒壊により、約80%が圧迫死。

高速道路・駅・神戸港・三宮の神社やビルの倒壊、人工島の液状化現象等の大打撃を受けた「異国情緒あふれる港町、ファッションの街神戸」など被災地で多数のボランティア

が活躍したこの年は「ボランティア元年」になり、1月17日は「防災とボランティアの日」になりました。

これをきっかけに①家具転倒防止策、②木造家屋の基準を「新・耐震基準」=「2000年基準」に、③建物の耐震化、④「DMAT(災害派遣医療チーム)」「ドクターヘリ」「ドクターカー」誕生、⑤東京消防庁が「ハイパーレスキュー隊:HR(特殊な技能・能力のスペシャリスト部隊)」創設、等実現。

16年

### 東日本大震災 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」 平成23(2011)年3月11日(金)午後2時46分



12年前、三陸沖が震源のMw\*9.0、最大震度7という「世界第4位の超巨大地震」発生。3分後に大津波警報発令と、瞬時に未曾有の大危機が。全壊した家屋は約107,800戸。巨大津波は高さ最大14.8mに達し、犠牲者約20,900人のうち、宮城・岩手・福島3県で、水門閉鎖、避難誘導等で亡くなった消防団員と消防士281人も含む約15,550人

の92.4%が津波による溺死でした。

13mの巨大津波が東京電力福島第一原発を襲い「世界でも例を見ない大事故」に。麻布台の「日本経緯度原点」は東へ約27cm移動、千代田区永田町の「日本水準原点」は約24mm沈下。NASA(米航空宇宙局)によると「地球が変形し、自転が早まり、1日の長さが100万分の1.8秒短くなった」そうです。

#### 「地震名」と「災害名」?

大規模な地震が発生すると気象庁が「〇〇地震」と命名し、政府が復旧・復興政策のために「〇〇大震災」と発表。

#### 「マグニチュード」と「震度」?

「マグニチュード」(M, Mj)  
震源から出る地震の大きさ。1増えると32倍。1以下:極微小、1～3:極小、3～5:小、5～7:中、7以上:大、8クラス:巨大、9クラス:超巨大。

\*「モーメント・マグニチュード」(Mw)  
岩盤のズレの規模、地震波の周期と振幅から計算。時間がかかるが正確な数字。

「震度」  
全国400か所に設置の「計測震度計」で測定される揺れの大きさ。震源からの距離や地盤の揺れやすさで変わり、0～4と5弱、5強、6弱、6強、7の10段階。7は「壊滅的」なので、これ以上の数で表さず。



田宮慎二さん

小岩消防署水難救助隊から  
気仙沼市へ第3次派遣として(292名)  
3月12日午前3時出動→午後4時から夜通し消火活動→13日夜明けから14日早朝まで水没地域での捜索・救助活動

谷川裕介さん

京橋消防署築地特別消防中隊から  
気仙沼市へ第2次派遣として(129名)  
3月11日午後8時40分出動→13日午前3時消火活動開始→途中休憩後、夕方から14日の朝まで夜通し消火活動



小室正史さん

第六消防方面本部・消防救助機動部隊(六本部ハイパーレスキュー:6HR)から  
東京電力福島第一原発へ第1部隊派遣として(68名)  
3月18日午前2時出動→原発へ入る30人の一人に→3月19日福島第一原発に到着→大破した建屋を深夜に注水冷却



●「一面沼だらけで建物がないなか、腰まで水に浸かりながら『生きている人を助け出す』ため、メガホンで呼びかけて捜索し、見つけたら救護所へ運びまた現場に戻るの繰り返し。はっぴを着た消防団員から助けを待つ人がいる場所を教えてもらい助かりました」  
●「濁った水の中を歩くのでガレキを踏んでしまい、靴の底に穴が開き、水が入って困りました」  
●「活動中の配給食料は食パン。食べ物の備えは大切です」



●「連れて走る消防車を見た住民たちから『お願いします』と手を合わせられ、『人命が大切。確実に消す』と、重油とガレキでドロドロになり滑りそうな地面を踏みしめながら強い臭気のため、広範囲の火災をひとつずつ消しました」  
●「スーパーポンパー(遠距離大容量送水装置)で川から水を吸い上げ、普通のホースより太くて重く水圧が高いため、2人で持ち、振り回されそうになりながら必死で消火活動しました」



●決死の覚悟で挑む現場を指揮した総括隊長は「特に機転がきく隊員を選んだ」とのこと。  
●「サイレンを鳴らして現場へ向かう途中、状況を知らない住民から『不安をおおるのでサイレンを鳴らさないで』と車を止められ、現場に近づくと誰もいなくて、ヘリコプターだけが飛んでいました」  
●「トイレの備えの大切さを痛感しました」



### 麻布消防団・新消防団長紹介

昭和53(1978)年1月1日に入団され、45年3か月後の令和5(2023)年4月1日に団長に昇格されました。



志田周規団長

地域の安全のために  
尽力してまいります。  
よろしくお願いいたします

東京消防庁は3県と新潟・千葉・静岡に514隊で3,243人を派遣され、皆さん本当にご苦労様でした。

区は「防災対策の主な取り組み」のひとつとして、全区民1人につき携帯トイレを20個配布します。「稲むらの火」の逸話から11月5日は「世界津波の日」ですが、3月11日も「大津波の日」として記憶しておきたいものです。

### 「花は咲く」

「NHK東日本大震災プロジェクト」のテーマソングであり、復興のためのチャリティソング。

作詞家と作曲家は宮城県出身。「花は咲くプロジェクト」として被災地と縁のある36人が歌い継ぎ、著作権料と売上金の一部は被災地の自治体へ寄付。

### ちょっとアドバイス!

大災害になると停電や通信障害で、お店のレジは使えず、電子決済(クレジットカードや電子マネー等)もできません。公衆電話用にも日頃から小銭を用意しましょう!

#### ●参考資料

- 1 「写真集関東大震災」北原糸子(編) (株)吉川弘文館
- 2 「関東大震災」吉村昭(著) (株)文藝春秋
- 3 コラム「関東大震災を語り継ぐというが」その1～3 (公社)日本地震工学会 片山恒雄 <http://www.jaee.gr.jp>
- 4 「関東大震災と鉄道」内田宗治(著) (株)新潮社
- 5 「港区史 図説 港区の歴史」令和2(2020)年12月発行 港区総務部総務課(編集)
- 6 「内閣府防災情報」<https://www.bousai.go.jp>
- 7 「消防団の闘いー3.11東日本大震災」(財)日本消防協会(編) (株)近代消防社

- 8 「2011.3.11東日本大震災 東京消防庁 活動の軌跡ー明日を信じて」東京消防庁、(公財)東京連合防火協会
- 9 「東日本大震災全記録ー被災地からの報告」河北新報社
- 10 「報道写真全記録2011.3.11-4.11東日本大震災」朝日新聞社・朝日新聞出版(著)、朝日新聞出版(刊)
- 11 「前へ!」東日本大震災と戦った無名戦士たちの記録:麻生幾(著) (株)新潮社
- 12 「近代消防、被災地ボランティア活動と消防 第1回～4回」東京消防庁目黒消防署 増田孝幸(著)

#### ●取材協力

- 田宮慎二 東京消防庁麻布消防署 1部大隊長(3/29時点)  
小室正史 東京消防庁麻布消防署 1部第二小隊長(3/29時点)  
谷川裕介 東京消防庁麻布消防署 1部第二小隊長機関員(3/29時点)  
増田孝幸(ますだたかゆき)東京消防庁麻布消防署 警防課 地域防災担当(課長補佐)  
大田茂(おたしげる)港区立麻布図書館館長
- 東京消防庁麻布消防署 106-0046 港区元麻布3丁目4-42 Tel03-3470-0119  
港区立麻布図書館 106-0032 港区六本木5丁目12-24 Tel03-3585-9225



# THE

六本木・麻布エリアに集う若者たちの今の声

# VOICE

六本木・麻布エリアに集う若者たちのリアルヴォイスを紹介するTHE VOICE。このまちに「住まう」「働く」「遊ぶ」「学ぶ」彼らのトレンドを追う新企画。東京に生まれ育ち、大学4年間を六本木ヒルズで「働き」、現在も活動の拠点は六本木という彼女たちの声をお届けする。



菅井麻里さん(すがいまり)

大学の国際経営学科でグローバルな経済学を学び、大手不動産会社へ就職。ニューヨークのパカラで体験した、ラグジュアリーな空間で提供されたアフタヌーンティーは、マンションの室内装飾の仕事に役立っている。



楠田真優さん(くすだまゆ)

学生時代、キャンパスと六本木を往復する側、企業のまちづくりに興味を持ち、現在は大手不動産会社で都心にあるホテル運営の仕事に従事する。訪れた英国でアフタヌーンティーを体験し、本格的なティーとその空間コーディネートに魅了される。



## 幼い頃から身近なまち

**麻里さん** 大好きな祖父が麻布台で治療院を開業していたこともあり、子どもの頃から麻布界隈は身近な存在でした。10代になって初めて訪れた六本木ヒルズのブックカフェに衝撃を受けました。ブックカフェは、「本は人を集め、コーヒーは人の気持ちを和ませる」こんな素敵な空間が、このまちに存在することに感動し、大学4年間はキャンパスのある池袋から六本木までアルバイトへ通いました。3年前にブックカフェは、ギャラリーが併設され新しい姿に変わりましたが、進化するこのまちは、私にとって居心地の良いまちに変わりはありません。

**真優さん** 母方の親戚が元麻布に住んでおり、ファッションデザイナーの仕事をしていました関係で、母と一緒に自宅へ伺って子ども服をいただいたり、麻布に赴く機会は子どもの頃からありました。麻里さんと同じように、大学4年間は六本木ヒルズのブックカフェでアルバイトをしました。アルバイトを終え三田のキャンパスまで、麻布十番商店街を通り駐日オーストラリア大使館、綱町三井倶楽部を過ぎ、徒歩で大学へ。魅力溢れる六本木、麻布のまちを散策したことが思い出されます。

## アフタヌーンティーを楽しむことの魅力

**真優さん** アフタヌーンティーを楽しむ活動のことを「ヌン活」といいます。アフタヌーンティーは午後



Mercedes me Tokyo UPSTAIRS外観



テイクアウトのアフタヌーンティーを受け取る様子



だく紅茶の時間のことで、ゆっくり時間をかけてお茶を楽しみながら有意義な時間を持てることに他なりません。大学1年生の時に、同じブックカフェでアルバイトをしている麻里さんと「話をする機会があればいいなあ」と思い、ある日「お茶をしましょう」と声をかけました。午後のお茶の時に、ゆっくり話をする時間が持てましたし、このことが私たちのヌン活の始まりだと思っています。

**麻里さん** アフタヌーンティーは英国で始まった喫茶習慣といわれております。3段に重ねられたスタンドに、ケーキ類、スコーン、サンドイッチが盛り付けられ紅茶と一緒に味わいます。コロナ前から外資系ホテルのアフタヌーンティーを真優さんと一緒に楽しんでいました。フルーツに代表される季節に合わせたメニューが魅力的でした。最近では、ファッションブランドとのコラボレーションアフタヌーンティーが話題になっております。これから発表される新作コレクションをテーマにしたアフタヌーンティーは、デザイナーの世界観がどのように表現されるのか注目しております。

## 六本木で体験するテイクアウトのアフタヌーンティー

**麻里さん、真優さん** テイクアウトのアフタヌーンティーは、ホテルというある特定の限られた空間とは、一味違ったヌン活を楽しむことが出来ると思います。例えば、緑多い港区内でのピクニックを想定して、大勢のグループで、スイーツが好きな男性も、さまざまなシーンのアフタヌーンティーを発見できるのではないのでしょうか。

\*午後のお茶、通例は紅茶、またはそのための時間(デジタル大辞泉)



ピスタチオ&抹茶のアフタヌーンティー(2名様分)

●参考文献 ●  
出口保夫『アフタヌーン・ティの楽しみ』(丸善 2000)

●取材協力 ●  
Mercedes me Tokyo UPSTAIRS 〒106-0032 東京都港区六本木7-3-10  
Tel: 03-3423-8775

(取材/井口真莉奈、おおばまりか 文/おおばまりか)







町会・自治会元気だより 04 あざぶほんむらちようかい 麻布本村町会



麻布本村町のDNA— 麻布の真ん中で伝統を受け継ぐ

麻布本村町会では、江戸時代に作られた獅子頭と山車人形を代々受け継いでいます。毎年9月の麻布氷川神社例大祭では、町会会館に設営された御神酒所で披露されます。これを受け継いできた町会の思いについて、麻布本村町会第11代会長の久松博さんにお話を伺いました。



麻布本村町会 第11代会長 久松博さん

獅子頭と山車人形は町会の宝\*

山車人形は江戸時代後期以降、祭りで町内を巡行しました。港区では氷川神社はじめいくつかの神社で見られました。関東大震災と戦災で多くが焼失しましたが、麻布と赤坂の氷川神社の山車人形は免れて現存しています。お祭りで御神酒所に飾ると、遠方からも見に来られるんですよ。人形はお祭り前日に組立てるのですが、これだけ、あれどこだっけと言いながら皆で完成させる楽しさがあります。いよいよお祭りが来たなとワクワクします。



昭和62(1987)年 獅子頭が町内を巡行 出典：久松安『麻布本村町会史』、本村町会史編集委員会、1988年、非売品

ということをお知らせしたいですからね。子どもたちには、町会で子ども用の半纏を作り、お祭りの時に貸し出しています。また、本村小の社会科の地域歩きで、この町会会館に来ることもあります。昔ここに商店街があったんだよと町の歴史を話すと、みんなびっくりするんですよ。

伝統を受け継ぐということ

町会長に就任してから14年。ここまで獅子頭と山車人形を守ってこられたのは、町会の先輩方から思いを託されたからです。それに、町会長だった父の姿を見ていたからかもしれません。今は、若い人たちが、みんな忙しいのに一所懸命やってくれています。昔からの「かたち」は、あって無いようなもの。今の感性で飾り付けしても良いのだと思います。町会のお祭りをずっと続けていけることが大事ですから。お祭りだけでなく、町会の行事は本村小学校や保育室のグラウンドを貸していただけるので続けられる

コロナ禍での活動

コロナ禍で祭礼行事が中止になっても、御神酒所を作り、麻布氷川神社から宮司さんが来られて、御霊入れをしていただきます。神輿は出なくても、お祭りは継続している



令和4(2022)年 山車人形の組み立て風景 御霊入れの様子

という面があります。本当にありがたい。獅子頭や山車人形は、お祭りの2日間だけです町会会館に飾るので、見に来てほしいですね。

令和5(2023)年度の祭礼は 9月16日(土)、17日(日)に行われる予定です。1年に1度御披露目される獅子頭と山車人形、どうぞお見逃しなく!!



令和4(2022)年9月 御神酒所前にて

\*山車人形「内宿禰命(タケノウチノスクネノミコト、メイン写真右奥)」は、天保3年(1832)に本村町上之町谷戸の商家が願主となって製作されました。「素戔鳴尊(スサノオノミコト、メイン写真左奥)」(本村町新町)とともに、町会で守られてきました。さらに、文久2年(1862)9月に後藤三四郎橋恒俊が製作した獅子頭一対も現存しています。

町会データ

- 加入世帯数 760世帯
年間行事
1月 年始夜警
2月 餅つき大会
3月 バスハイク
4月 春季交通安全運動
5月 総会
6月 防犯灯チェック
7月 ラジオ体操
8月 子ども納涼大会
9月 地域祭礼協力
10月 フリーマーケット
11月 麻布地区総合防災訓練
12月 防犯灯チェック 年末夜警

麻布本村町の由来

古川の谷へ南面する台地から傾斜地にかけており、古くから住居好適地に選ばれたことは貝塚の存在することでもわかります。阿佐布という地名は当初このあたりを指したものと推定され、本村とは元村すなわち麻布の中心の意味といわれています。



- 取材協力 港区立郷土歴史館
参考文献 久松安『麻布本村町会史』、本村町会史編集委員会、1988年、非売品 『東京都の地名』、平凡社、2002年 『港区史』第3巻通史編近世下、港区、2021年 高山優『麻布氷川神社祭礼関係資料調査概要報告』、港区教育委員会

お問い合わせ
麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
〒106-8515 港区六本木5-16-45
電話03-5114-8802 / FAX03-3583-3782

(取材/田中亜紀、樋口政則、武藤佳菜 文/樋口政則、武藤佳菜)





ヴィットル・セレーノ(VÍTOR PAULO DA COSTA SERENO)  
駐日ポルトガル共和国特命全権大使

ポルトガル共和国  
面積:92,225平方キロメートル(日本の約4分の1)  
人口:約1,029万人(2021年、IMF)  
首都:リスボン市  
言語:ポルトガル語  
元首:マルセロ・ヌノ・ドゥアルテ・レベロ・デ・ソウザ大統領  
(2016年3月就任、2期目。任期5年)  
議会:1院制 230議席、任期4年

ポルトガル共和国



参考:外務省ホームページ  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/portugal/data.html>

取材/ポルトガル共和国大使館

大使を訪ねて  
麻布の"世界"から



# PORTUGAL

国交480年の友好をさらに深めていきたい

ポルトガルと日本の友好関係は、1543年、種子島にポルトガル人が到着したことに始まります。以来480年、長い歴史があります。カステラ、金平糖、カップ、テントなどポルトガル語由来の日本語も数多いですね。この春(2023年4月)、千代田区から西麻布にポルトガル大使館が移転してきました。早速2022年4月より着任されているヴィットル・セレーノ(VÍTOR PAULO DA COSTA SERENO)駐日ポルトガル共和国特命全権大使(以下大使)にお話を伺いました。



ドゥカティを颯爽と乗りこなすイージーライダーならぬセレーノ大使。

## 日本の印象は伝統、公的秩序が素晴らしい

1997年より、アフリカ、ヨーロッパ、中南米、そしてアジアと四大陸にわたって活躍してきた外交官のエキスパートである大使。来日前、駐マカオ香港ポルトガル総領事として2013年から5年間マカオに駐在した。その間、2017年に初来日されて東京、奈良、京都、大阪を訪問している。日本の印象は「テクノロジーと伝統、公的秩序の素晴らしさに感動しました」とお褒めをいただく。更に「日本の多くの方がポルトガルに親しみを持っていることが驚きと共に、非常に嬉しく思いました」。駐在が決まり、日本に対する好印象は変わっていない。

東京ではアンドレア夫人と2人暮らしで、大学生の息子さんはポルトガルに住む。「双方の両親が面倒を見られるので、安心です」

## お気に入りスポットへはドゥカティに乗って

日本での生活が1年経過し、お気に入りスポットは見つけられたでしょうか。

「大使館から歩いてすぐの、有栖川宮記念公園は素晴らしいですね。六本木ヒルズには美味しいお店がたくさんありますし、周辺は大使館が多いので、お付き合いの輪が広がり、満足しています」と、にっこり。

移転後、最初に挨拶に行ったのは、警察署と消防署。麻布の街の一員として、より親密さを深めていきたいという。

散歩以外にも、体を動かすことが好きな大使は、ジョギングも欠かさない。1周約5kmの皇居は3周=15km走りこむのが基本。パドルテニスにも親しみ、サッカーや水泳も大好き。

そして、趣味はバイクのツーリング！イタリア製の大型バイク、ドゥカティ(Ducati)を所有していて、最近もフラット鎌倉へツーリングされたそう。

実にアクティブ！

## 貿易拡大が私の使命

次に日本～ポルトガル間の貿易について伺った。

「輸出入とも自動車関連の部品が、大きな割合を占めています。輸出拡大は、私にとって最重要課題でもあります」

ポルトガルに国産車はないものの、ベンツ、BMWの自動車イノベーション(技術革新)センターがあり、ヨーロッパ最大級のフォルクスワーゲンの工場も抱え、海外でも大きな評価を得ている。電気バス・水素バスの輸出も好調で、日本との取引も順調に伸びている。また、自然エネルギーの分野について力を入れている。

食品部門ではワインの輸出率が右肩上がり、世界各国で人気が高まっている。日本でもワインフェアやフードデックス(食品・飲料展示会)に出展し、成果を出している。更なるセールスプロモーションを展開していく予定だという。

「フランスやイタリアよりもリーズナブルに購入できます。ポルトガルワインといえば、ポルトワインを思い浮かべるでしょうが、実はロゼワインに人気が高まっているんですよ」と、大使。

オリーブオイルの品質にも自信があり、日本でも賞を2つ受賞し、注目されている。



## ポルトガルの食文化 バカリャウとエッグタルトは是非

食つながり、ポルトガルへ行ったら食べるべきものを質問した。「ポルトガル人はヨーロッパで一番お米を食

べるので、日本の食文化に似ていると感じています」

おすすめの筆頭はバカリャウ(鱈の干物)。水で戻して、コロケやグラタンなど様々な料理に登場する。まさしく、ポルトガルのソウルフード。また、6月は各地で聖人のお祭りがあり、国中でイワシの塩焼きを食べる。ポルトガルの人たちは、魚介類が大好きで、この点も日本とよく似ている。

スイーツではなんとと言ってもパステルドナタ(エッグタルト)。パイ生地の中にたっぷりのカスタードクリームを流し込んだ、ポルトガル発祥のパイだ。「リスボンへ行ったら元祖エッグタルトの店(パステイス・デ・ベレン(Pastéis de Belém))に行くことをお勧めします」



「コジード・ア・ポルトゥゲーズ (cozido a portuguesa)」  
コジードとは、ポルトガルの伝統的な煮込み料理でシチュー、ポトフのようなもの。豚肉のいるいるな部位やチョリソーなどをたっぷりのキャベツや人参などで煮込んだもの。大使の大好物。 ©pingodoce



「鱈とともろこしのパン、ソーセージ、ベーコン添え(bacalhau com broa, linguica bacon)」  
バカリャウ(鱈の干物)の料理にはともろこしのパン(ブロー)がよく登場する。茹でたポテト、炒めた玉ねぎ、下処理したバカリャウ、ソーセージ、ベーコンなどの上に、砕いたブローを乗せて、オーブンで焼いたご馳走。 ©pingodoce

## 魅力満載 ポルトガルの おすすめスポット

首都リスボンは元より、大使が強調されたポルトガルで行くべきスポットのひとつが、中部の古都、コインブラ。大使は生まれも育ちも同地で、1290年創立の欧州屈指の歴史を誇るコインブラ大学の卒業生でもある。「私の学んだ大学の建造物群は世界遺産に登録されていますので、是非訪問してほしいです」

他にも北西部ギマランイスの歴史遺跡や、最西端のロカ岬など、見どころは豊富だ。「リスボンにいる時は、海が見たくなると、ロカ岬に足を伸ばします。欧州最西端のロカ岬は日本の方にとっても人気があり、嬉しい限りです」

「ポルトガルと日本の絆が、より深くなるよう、大使として全力で臨んでいきたいと思っています」と、力強いお言葉をいただいた。

じっとしていることが不得手とおっしゃる大使は、動作がきびきびしていて、楽しいインタビューとなりました。今後は大使館を開放して、地域の皆さんとの交流をより深めたいとお話され、両国の繋がりがますます親密になる予感で、とても嬉しく思いながら、大使館を後にしました。

(取材・文/高柳由紀子、田中康寛)



世界遺産のエヴォラ歴史地区  
ポルトガルの南東部、スペイン国境近く、標高300mの丘の上にある城壁都市。2世紀末のローマ時代の遺跡であるディアナ神殿や12～13世紀の大聖堂などが残る。 ©CMGPPacheco



世界遺産のコインブラ大学の建造物群  
大使も学んだコインブラ大学のジョアナナ大学図書館などヨーロッパ屈指の伝統を持つ名門コインブラ大学の建造物群が、世界遺産として登録されている。 ©PauloMendes



ポルトワインでおなじみの、ポルトはリスボンに次ぐ第二の都市。ドウロ川が流れる港町で、1年中観光客で賑わう。





# 麻布の外周を歩く⑤

最終回



麻布地区の外周を、境界線の位置や成立経緯に注目しながら一周する散歩も最終回となりました。東京ミッドタウンから、本誌58号でスタート地点とした日赤通りまで歩きます。【約3km】

## 旧軍用地と墓地の外周

東京ミッドタウンと青山霊園は赤坂地区、その南側が麻布地区です。いずれも大名屋敷が明治以降に軍用地や墓地に転用され、戦後も区画割に大きな変化がなかったことから、江戸末期の武家屋敷の外周線がほぼそのまま現在の境界線として残りました。

外苑東通り沿い、千代田線乃木坂駅近くにある教運寺①は、境界にゆかりのある寺院です。「青山」の地名の由来は、徳川家康の家臣 青山忠成が「馬で走り廻れる範囲を所領として与える」と言われて拝領した広大な屋敷地。この時馬が力尽きて倒れた場所に駒留八幡宮が築かれたと伝わります。右の江戸図を見ると「青山家屋敷地の東南隅、教運寺の隣」に八幡宮が見つかります。ここが青山(赤坂地区)と麻布の境界となり、以降、教運寺は麻布龍土町の北端でしたが、昭和40年代の住居表示施行時に境界線が引き直され、赤坂地区に編入されました。

東京ミッドタウンと青山霊園に挟まれた麻布側の土地は、歩兵第三連隊が置かれた広大な軍用地でした。現在は、国立新美術館、政策研究大学院大学等が建っており、境界線沿いには衆議院議員官舎②、日本学術会議③、都立青山公園④、米軍施設⑤があります。



嘉永6年『青山渋谷絵図』(国会図書館デジタルコレクション)



教運寺は大きなビル



米軍基地ヘリポート上の空は広い



左は現在、右は明治9-19年頃 ((一財)日本地図センター『東京時層地図』に境界線を加筆)



## 旧川筋の道

青山霊園と青山霊園立山墓地(いずれも赤坂地区)の間に、西麻布2丁目の一画が北に向かって細長く伸びています。ここはかつて筈川流域の水田でした。右の明治10年代の地図で左上から右下にY字を描きながら細長く伸びる水田が確認できます。当時は水田部分全体が青山原宿村に属していましたが、市街化が進んだ明治24年に、北部が赤坂区、南部が麻布区に組み入れられます。現在の境界線に沿って外苑西通りを北上し、筈児童遊園⑥の先からUターンして南下すると、歩いている道が周辺の敷地から一段低くなっていて、ここが河川跡だった事が感じられます。

庚申塔のある立山墓地の南端から根津美術館下に向かう境界線は崖になっており、西麻布2丁目児童遊園から崖の高さが確認できます⑦。そこからすぐに現れる長い白塀は根津美術館(赤坂地区)。隣接する一軒家は、西麻布に自宅兼事務所をかまえた著名な建築家、アントニン・レーモンド設計の旧カニングハム邸\*です⑧。

## 長谷寺から日赤通り

境界線は長谷寺⑨と根津美術館の間ですが、通り抜ける道はありません。長谷寺の墓地にお参り、または根津美術館の庭園に入場する機会があれば、敷地境が深い谷になっている様子をご覧ください⑩。

長谷寺を背に高樹町の信号を渡り日赤通りへ。「通りの西側が赤坂、東側が麻布」ときれいに分かれています。赤坂地区の一部に、住居表示施行まで麻布だった土地も。港区の掲示板で確認できます⑩。



7



8



10

## 麻布の外周を振り返る

麻布地区の外周を形作る境界線の多くは、近世またはそれ以前に由来するものでした。近現代の都市開発で川が消え、地形が改変され、道路や建物が一新された今も、境界線がかつての川の蛇行や土地の形状を伝え、大地主や土地開拓者のストーリーを物語ってくれる。そんな発見がいくつもありました。武家屋敷の外周線に由来する境界線と、河川や崖など自然のハザードに由来する境界線からは、「武家地が多く」「台地と谷地が複雑に入り組む地形を持つ」麻布らしさも伝わってくるようでした。

●参考文献  
港区立港郷土資料館『増補港区近代沿革図集 赤坂・青山』2006年  
『寺社書上』[19] 麻布寺社書上三,写。(国会国会図書館デジタルコレクション)  
東京市麻布区編『麻布区史』1941年

\*アントニン・レーモンドについては、本誌22号、旧カニングハム邸については本誌15号もご参照下さい  
(取材・文/八巻綾子)





# 麻布の軌跡

## 麻布山善福寺



本堂内部  
(本堂内は非公開)

さまざまな国の大使館が建ち並び、異国の人々が行き交うインターナショナルな街、麻布。なぜそのような姿になったのか。善福寺はこの街の歴史を考える上で外すことのできない存在であり、日米友好の始まりの地といえる。この寺に関わる人物やそのドラマに注目してみたい。

### ●歴史

天長元(824)年、空海(弘法大師 774～835年 真言宗の開祖)によって開山されたといわれ、当初は真言宗の寺院であった。その後鎌倉時代になって、越後国に配流になっていた親鸞(1173～1263年 浄土真宗の宗祖)が当寺を訪れ、了海(1218～1312年 \*生没年については諸説あります。親鸞の高弟と云われる)によって浄土真宗に改宗したとされ、その後各時代の天皇や幕府などの保護をうけて発展を遂げた。

安政5(1858)年に日米修好通商条約が締結されると、翌年から当寺院内がタウンゼント・ハリス(1804～1878年 アメリカの外交官)ら一行の宿舎となり、初代アメリカ合衆国公使館として使われた。1861年にはハリスの通訳、ヒュースケン(1832～1861年 駐日アメリカ総領事館の通訳)が公使館へ戻る際に暗殺され、善福寺内に運ばれて亡くなった。

本堂は、慶長12(1607)年に徳川家康が東本願寺八尾別院本堂として建立した建物を昭和36(1961)年に移築、再建したもの。本堂内陣の正面は華やかな欄間彫刻で、天井画は善福寺の檀家の家紋である。平成21(2009)年には江戸時代の大規模な浄土真宗の本堂をよく示す都内有数の建造物として港区の有形文化財に指定された。

また昭和3年、寺の境内に麻布山幼稚園を開園し、今年で95周年を迎える。

現在、善福寺は浄土真宗関東七大寺の一つである。

### ●見どころ

#### 福澤諭吉の墓

福澤諭吉(1835～1901年)は慶応義塾大学の創設者。2月3日は福澤の命日(雪池忌)に当たり、慶応大学の関係者らが多数当寺院にある福澤の墓を訪れる。福澤の墓が当寺に移ったのは1977年。それ以前は品川区上大崎の常光寺にあった。

#### 越路吹雪の碑

昭和時代の歌手、越路吹雪(1924～1980年)の歌碑がある。芸能関係者らが訪れることもあり、その姿が報道されることもあ



ハリスの碑



境内の案内板

る。越路の代表曲「愛の讃歌」の歌詞も刻まれている。なお、越路の墓所は当寺院ではなく、川崎市にある。

#### 逆さいちょう

推定樹齢750年以上、親鸞自ら植えたと言われるいちょうの古木。伝承によると、親鸞のついた杖から生えてきたといわれる。名の由来は枝が下の方に伸びて、逆さになっているように見えることから来ている。大戦時の空襲で被災したことで小さくなったものの、現在でも都内最大のいちょうであり、国の天然記念物に指定されている。

#### タウンゼント・ハリス顕彰碑

ハリスの功績を称えて、広く世間に知らしめるために建てられた。

#### 柳の井戸

参道にある井戸。空海が柳の木の下で錫杖を立てたところ湧き出してきたという。現在でも少量ながら水が湧き出している。関東大震災や東京大空襲の際は多くの人々が飲料水として利用した。

#### ●こぼれ話

2000年8月27日、K-1で名を馳せたアンディ・フグ(1964～2000年 スイスの格闘家)の葬儀がこの寺院で営まれた。死因は白血病だった。

私(筆者)は麻布山幼稚園の卒園者で、近くに住んでいるが、今回善福寺を訪れるのは久しぶりのことだった。住職や園長先生の話を知っていると、遙か昔の記憶が甦ってくる。黄色い幼稚園かばんを肩にかけて通っていた日々。おぼろげながら本堂の佇まいや逆さいちょうの木を覚えている。あれから数十年が経ち周りの風景は次々と変わってしまったが、あの時、園児であった私が見上げた木々は今も当時と同じようにやさしくそよぎながら麻布の街を見守っている。

#### ●参考文献・写真

村岡淳『続・麻布の名所今昔』1974、永坂更科  
港区立郷土歴史館『港区文化財総合目録』  
麻布山善福寺 <https://azabu-san.or.jp/index2.html>

(取材・文/ 畑中みな子)



本堂は港区の有形文化財に指定されている



本堂内陣の見事な欄間彫刻



逆さいちょうの樹



親鸞聖人の像



「柳の井戸」は参道にあり、現在も水が湧き出ている





## 令和5年度「ミナヨク」のお知らせ

令和5年9月から、全7日間の少人数制プログラムを実施します。仲間とのアイデア出しやフィールドワークを通じて、地域の活性化に取り組む方を募集します。

### 開催日程(予定)

Day1	9月23日(土)	13:00 ~ 17:00	概要説明・自己紹介 過去の企画紹介
Day2	9月30日(土)	13:00 ~ 17:00	活動の体験・学習 ディスカッション
Day3	10月14日(土)	13:00 ~ 17:00	活動の体験・学習 ディスカッション
Day4	10月28日(土)	13:00 ~ 17:00	想い・企画案の発表 チームづくり
Day5	11月11日(土)	13:00 ~ 17:00	企画の骨子づくり 講師との相談
Day6	11月25日(土)	13:00 ~ 17:00	企画詳細化、実証計画 講師との相談
Day7	12月16日(土)	13:00 ~ 17:00	企画内容、実施計画の発表、 アドバイス

※7日間のプログラム終了後、追加講座を実施する場合があります。

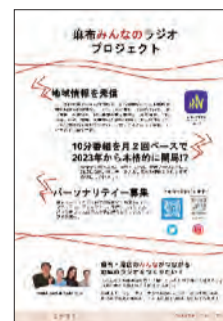
### 昨年度の取組

令和4年度は、11名のメンバーで、9月から12月にかけて、全7日間の活動を行い、4つのアイデアが生まれました。

●アイデア①  
ホンモノの日本体験  
で子ども国際交流  
—お茶会を通じて、国  
際文化交流を図る—



●アイデア②  
麻布みんなのラジオ  
プロジェクト  
—地域の情報を発信  
するコミュニティラ  
ジオ企画—



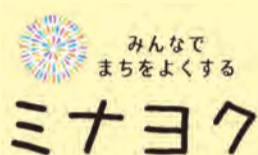
●アイデア③  
麻布ロボット万博  
—次世代イノベ  
ーターを地域で育む  
プロジェクト—



●アイデア④  
地域MaaS構想  
「AZABU GO」  
—どこでも誰でも便  
利な移動サービスを  
立ち上げる—



### 事前説明会



ミナヨクの取り組みを紹介するとともに、みなさまの質問にもお答えします。事前申し込みは不要です。ご興味のある方、参加を迷っている方、どなたでもご参加ください。

日時 令和5年9月9日(土) 14:00 ~ 15:30

内容 事業概要、修了生との対話、質疑

会場 麻布区民協働スペース(麻布保育園3F)  
港区六本木5-16-46

### 1 アイデアを生む



### 2 アイデアを試す



### 3 地域に根付く



会場 麻布区民協働スペース他

対象 麻布のまちの活性化やコミュニティデザインに興味・関心のある方  
地域活動に参加したい方

定員 20名程度

※応募多数の場合、抽選とさせていただきます。

参加費 無料

応募方法 以下のいずれかの方法でお申込みください。

- ①区HP応募フォーム
- ②参加申込書をご記入のうえ、郵送してください。  
(麻布地区総合支所協働推進課でも配布しています。)

応募期間 令和5年8月21日(月)～9月20日(水)まで

お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話/03-5114-8812



▲応募フォーム、  
参加申込書  
ダウンロードは  
こちら

## 2023年「熊野神社祭礼・町会のおまつり」が開催されました ～麻布発の「将来のイノベーター」育成に向けた取り組みもスタート～

地域住民への日頃の感謝とともに地域活性化を図りたいという想いから、町会の若手メンバーが集まりさまざまなアイデアを出し合い企画・運営したイベント「熊野神社祭礼・町会のおまつり」が2023年6月2日(金)～6月4日(日)に麻布台の熊野神社周辺で開催されました。

期間中は、猿回しや人形劇が行われた他、スーパーボールすくい、風船つりなど子供たちが喜ぶコーナーも設置され、多数の親子連れが参加し山車を引く子供たちの元気な掛け声と共に賑わいを見せました。

また、麻布地区総合支所の地域事業「ミナヨク」を卒業したメンバーや地元の子供で立ち上げた「ミナヨクKids」が企画・運営を手がける取り組みもスタートし、地域のつながりや子供へのイノベーター育成をコンセプトに、地元の子供によるデザイン案を取り入れたスイーツを作り、同おまつりに参加してお披露目しました。



「ミナヨクKids」を立ち上げた背景に、「世界中でテクノロジー教育が進む中、麻布地域から将来のイノベーター育成に向けて地域活動を通して様々な機会を作り、将来的にはイノベーターとして活躍することで、麻布地域から経済成長を促進し、生活を豊かにすることにつながる。今後はAI教育事業と連携し、子供たちへの実践的な学習を通じて支援をしていく」と考え、今回は町会のおまつりに参加し子供のデザイン発想を活かしたスイーツ作りに挑戦しました。

スイーツ作りは子供が白い画用紙に描いたオレンジ色や黄色を使ったお絵かきからインスピレーションを受け、甘酸っぱいみかんとオレンジを使ったスイーツを作りました。また、容器にもオレンジ色や黄色のラベルを貼り子供のデザイン案を含めた他に、『脱使い捨て』の取り組みを促し、大人も子供も協力し地域全体で社会問題の解決につながるようという想いを込めました。



### ミナヨクKids について

麻布地域において愛着を持って地域活動を行い、新しい地域のつながりを構築していくことを目的とした事業である「ミナヨク」に参加した任意のメンバーと子供で立ち上げた「ミナヨクKids」は、大人と子供で地域活動に関わり、次世代イノベーターとなる子供たちへ地域で育むプロジェクトなどを行っています。



# 港区麻布地区総合支所だより



“ちょこっと立ち寄りカフェ”にお越しください

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。毎月、麻布地区のいきいきプラザ4館で開催しています。ぜひ、ちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアも皆さんのお越しをお待ちしています。

**会場及び内容**

なお、プログラムは変更することがありますのでご了承ください。イベント、講座、ゲームなどを行っています。

◆ 飯倉いきいきプラザ 東麻布2-16-11	
7/5 (水)	七夕コンサート
9/6 (水)	ポッチャとダーツを楽しもう
10/4 (水)	神の目(ドリームキャッチャー)作り
◆ ありすいきいきプラザ 南麻布4-6-7	
7/13 (木)	貝殻アート&トーンチャイム
9/14 (木)	紙芝居
10/12 (木)	キルティングパーティ (合唱)
◆ 西麻布いきいきプラザ 西麻布2-13-3	
7/20 (木)	フラダンス&オカリナ
9/21 (木)	みんなで話そう(元気の秘訣)
10/19 (木)	とんぼ玉
◆ 南麻布いきいきプラザ 南麻布1-5-26	
7/26 (水)	サクソ五重奏
9/27 (水)	秋のリース作り
10/25 (水)	モルックに挑戦



※8月は「ちょこっと立ち寄りカフェ」のお手伝いをしていただける方を対象にボランティア養成講座を実施します。

- 時間** 毎回 午後1時30分から午後2時45分頃まで
- 対象** どなたでも
- 参加費** 無料 \*茶菓の提供は当分休止しています。(茶菓提供の際は、別途100円を徴収します。)
- 申込み** 不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ/麻布地区総合支所区民課保健福祉係 電話/03-5114-8822



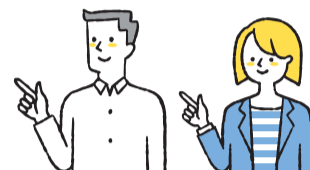
あざぶ達人ラボ 新規メンバー募集!!



冊子は麻布地区総合支所協働推進課で配布しております。

麻布のまだ知られていない魅力と一緒に引き出してくれるメンバーを大募集中です。

麻布の魅力を学び、伝えるために平成20年度からスタートした地域事業【あざぶ達人ラボ(当初はあざぶ達人倶楽部)】では、3つの部会に分かれてそれぞれの視点から麻布地区の魅力を発信する活動をしています。



**あざぶ達人ラボ3つの部会**

- 企画研究部会**  
麻布の建築・地形・歴史・文化などを独自の視点で読み解きます。
- 地域との連携部会**  
地域事業「地域サロン〜ちょこっと立ち寄りカフェ〜」等に出向き、ミニイベントを開催しています。麻布の魅力や歴史を、遊びながら学べる「あざぶカルタ」も作成しました。
- まちあるき部会**  
麻布地区の魅力を巡ってつたえる、散策マップを作成し、ガイドツアーを実施しています。



お問合せ/麻布地区総合支所協働推進課 地区政策担当 電話/03-5114-8812

## 都税事務所からのお知らせ

**耐震化のための建て替え又は改修を行った(一定の要件を満たすもの)に対する固定資産税・都市計画税を減免します(23区内)**

減免の期間と額は、以下のとおり

- **建替え:** 新築後新たに課税される年度から3年度分について全額減免(居住部分に限る。)。ただし、減免の対象となる戸数は、建替え前の家屋により異なる。
- **改修:** 改修工事完了日の翌年度分から一定期間、居住部分で1戸あたり120㎡の床面積相当分まで耐震減額適用後の税額を全額減免。  
減免を受けるには申請が必要です。詳細は、HPまたは下記問合せ先へ。

お問合せ/港区にある物件について  
港都税事務所 電話/03-5549-3800 (代表)



主税局 HP



**東京ゼロエミ住宅の新築に対する不動産取得税(家屋)を減免します(23区内)**

減免の対象と額は以下のとおり

- **減免の対象:** 太陽光発電システムの設置など、一定の要件を満たす新築の東京ゼロエミ住宅
- **減免割合:** 最大で住宅に係る不動産取得税の10割減免を受けるには申請が必要です。また、この他にも、耐震化促進税制等、住宅を新築したときに軽減を受けられる場合があります。詳細は、東京都主税局HPをご覧ください。か、下記へお問い合わせください。

お問合せ/港区にある物件について  
港都税事務所 電話/03-5549-3800 (代表)



環境局 HP



主税局 HP

買い物するなら地元の商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話/03-5114-8812 ●FAX/03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧いただけます。

「ザ・AZABU」は英語版も4カ月後に発行しています。



ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内  
六本木一丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉のいきいきプラザ、麻布地区センター、麻布地区総合支所等  
●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

- Staff
- 井口真莉奈
  - おおばまりか
  - 加生武秀
  - 加生美佐保
  - Mai S.
  - 高柳由紀子
  - 田中亜紀
  - 田中康寛
  - 雷田弥生
  - 奈良美扶
  - 畑中みな子
  - 樋口政則
  - 堀内明子
  - 堀切道子
  - 武藤佳菜
  - 八巻綾子

編集後記

編集委員になって1年と少しが経ちました。日頃のウォーキングでは、これまで歩いた記憶のない道を選んだりしています。今まではためらわれた未知の路地への侵入も、編集委員という不思議なエネルギーで積極的に挑めるようになりました。コロナ禍で遠くへ行けなかった分、地元を見つめる機会が増えています。ようやくコロナも落ち着いたようですが、好奇心は失わずに地域を掘り起こしてみたいとワクワクしています。(樋口政則)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。  
年中無休/午前8時~午後8時 ※英語での対応もいたします。  
電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752  
お問合せフォーム/ <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>  
"Minato Call" information service  
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.  
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;  
Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>